

採録
福井あばさけ
ビジネス道

福井に
偉人あり!

大阪大学大学院教授・博士(医学)
川崎和男 かわさきかずお
http://www.kazuokawasaki.jp/

1949年福井市生まれ。
デザインディレクターとして、伝統工芸品から、コンピュータ、原子力エネルギー、人工臓器、先端医療、宇宙空間の装置化などまで幅広く研究、教育、実務活動を行う。近年では、アメリカ大統領選挙にてペイリン女史の眼鏡が川崎氏デザインのものであったことで話題となった。Newsweek誌の「世界が尊敬する日本人100人」に2度抜擢されている。



の適塾が世に名を成すとすれば、橋本左内をもつて他なし」とまで言わせているんだよね。同世代だった福沢諭吉も、彼の知識力と語学力には敵わなかったと言われています。西郷隆盛が亡くなるとき、懐には橋本左内からの手紙を入れていたともいわれているし、由利公正も五箇条のご誓文を策定するときには、橋本左内の影響をかなり受けていますね。

僕の小学校時代の先生は、二宮金次郎の話なんてせずに、橋本左内の「啓発録」の話なんかをしょっちゅうしていたよね。明治維新の基礎は橋本左内なくしてはありえなかつたと思うんだ。あと松平春嶽、梅田雲浜もすごい。それから岡



倉天心も福井藩士

確かに、みんな福井の偉人たちですが、地元でさえもあまり認知度が高いとはいえないですね。「そう、だからもっと徹底的に子供たちに教育してほしいよね。坂本龍馬だけじゃないって(笑)」(川崎先生は相当な橋本左内フリークなようで、この後も延々と歴史話に花が咲きました…)笑

幸福≠不自由!

話は変わりますが、先ほど番組コーナーで「年収と幸福感」についての話がありました。先生の思う幸福感について聞かせていただけますでしょうか。
「年収の話があったけど、今世界

——先生にとって「福井」とはどういう存在ですか？

「もちろんひとつは生まれ故郷であるということ。これはすごく大事なことですよ。そして福井に生まれてよかったなあと思うのは、多くの偉人を生んだ土地だということ。ただ、福井の偉人ってあまり広く知られていないんだよね。今世間では坂本龍馬がすごい人気だけど、ちょっと違うよなって思ってしまう。幕末福井藩にはもつとすごい人材がいっぱい存在していました。特に、武士でありながら26歳にして斬首の刑にあう橋本左内ね。僕が今いる阪大には、適塾の歴史があるんです。この適塾の祖である緒方洪庵の言葉に『後世こ

の人口は約70億人になろうとしています。そのうち年収150万円以上の人は約1億人。全人口の65%45億人は、年収数万円といわれています。つまり1億人しか今の現代的な生活を受けていないんですよ。あとの69億人はまだまだ貧しい。そのことをみんなもつと知らなくてはいけない。

それとね、そもそも「幸福」という考え方がみんな間違っているんです。「幸」というのは象形文字なんです。何を意味しているかというと、両手を縛られている形。例えば、神様が人間を崖から突き落として、死んでしまった方を不幸と呼び、生き残った方を幸という。いずれにしても自由を奪われてい





る状態です。「福」は、神様と、膨らんだ壺を意味している文字。貧しいけれども正直に生きる人間に対して神様が、食べ物やお金のいっぱい入った壺を玄関にそっと置いていつてくれる。それを「幸福」といったわけ。そして外を見ると、神様の足跡が残っている。それがつまり「福祉」になるわけです。

「なるほど！ 身を明かさずにそっと福を置いて去るのが本来の「福祉」という意味なんですね。しかし「幸福」というのは無条件の幸せだと思っていました。違うんですね。

「人間は基本的には不自由な存在なんです。手は縛られている状態ですから社会で生きていく不自由



由さを象徴しています。でも正直に生きているとね、神様が幸運を与えてくれる。

それと僕はね、行政の福祉というの、本来は壺を置いてそっと足跡だけ残して帰ってくるくらいなのが本当の行政の役割だと思うんです。

デザインで世界を救う！

——福祉というと、先生はPKDという福祉活動にもご尽力されていらつしゃいますが、そちらの話も伺っていいでしょうか。

「多くの平和活動は、暴力や闘争に対する制圧活動であつたりするんだけど、僕は銃で平和はやってこないと思つていてんです。PKD

の寄付をいただくことになりまして。これをぜひ購入していただきたいです」

——我々もぜひ協力させてもらつて、福井からPKD活動を盛り立てていきたいです！ 最後に、先生から福井県人に向けて何かメッセージをいただけませんか。

「福井駅がとてもきれいになりましたよ。段差が全くなくて、車椅子でも平気なこの駅はなかなかないですよ。すごくいい。

ただ、もっと福井が生んだ偉人たちがアピールして福井を知ってもらえるといい。福井駅を降りたら、街の中心に偉人たちの銅像があつたりする、そんな街づくりを

(Peace-Keeping Design)は、医療的な活動です。最初におこなつた活動はワクチン注射のデザイン開発です。既にワクチン注射は、心ある人たちの寄付で、アフリカなどにたくさん送られています。でも問題点があるんです。実はワクチンというのは腐るんです。だから現状、日本からアフリカに送られたものの多くは破棄されてしまふ。更に問題なのは、その破棄された注射器を麻薬用に再利用されてしまふという事実です」

——寄付しているつもりが、隠らずしも麻薬販売に加担しているってこと？

「そうなんです。そこでPKDでは、注射器そのものをデザインして

していつてほしいな。郊外の方が賑わつているドーナツ化ではやっぱり寂しい。そういった意味ではお隣の金沢は上手だよ。街の中心に美術館があつたりして観光客も多い。福井もそれに見習つて街づくりを考えていくべきだと考えます。

デザインだけにとどまらない、本当に幅広く興味深いお話を沢山ありがとうございました！現代の偉人・川崎先生と同郷であることが誇らしい我々です。今後も益々のご活躍を楽しみにいたしております。



開発しています。一回に必要なワクチンを注射したら二度と使用できないような構造になっています。また、世界中では毎日5000人の子供たちが死んでいる。その中でも多くの原因は結核なんです。そこで我々は、結核を早期発見して適切なワクチン注射ができるような研究も進めてきました。これらが今現在のPKDの具体的な活動です」

——我々がPKDのそういった活動に対して何かしらの支援をすることはできないでしょうか？

「iPhoneの中で、時計や脈拍測定などのいくつかのアプリケーションを販売しています。ひとつ115円。それを購入してもらつたら80円



*掲載内容は、放送内のごく一部です。あばさけHPでは過去すべての放送内容を無料配信しております。どうぞご利用ください。
www.abasake.com